

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520700

研究課題名(和文)日本の大学英語教育のための参加型「国際英語」教授法のモデルの構築

研究課題名(英文)Constructing models for participatory learning of EIL for universities in Japan

研究代表者

日野 信行(Hino, Nobuyuki)

大阪大学・言語文化研究科(研究院)・教授

研究者番号：80165125

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文):「教室内参加型」の教授法として、IPTEIL(Integrated Practice in Teaching English as an International Language)にELF(English as a Lingua Franca)論を取り入れて発展させ、また専門科目を英語で教えるEMI(English-Medium Instruction)におけるCLILにELFの概念を統合したCELFIL(Content and ELF Integrated Learning)という教授法を提案した。また「教室外参加型」として、多文化社会での職業体験等による国際英語の学びの意義を示した。

研究成果の概要(英文): For classroom pedagogy, IPTEIL (Integrated Practice in Teaching English as an International Language) was updated through the incorporation of the latest theories of ELF (English as a Lingua Franca). Also as a classroom methodology, a new approach named CELFIL (Content and ELF Integrated Learning) was proposed by integrating the concept of ELF with EMI (English-Medium Instruction) and CLIL (Content and Language Integrated Learning). For "out-of-class" pedagogy, based on case studies in Hawaii, the significance of job shadowing for the learning of EIL was highlighted. These research results were published in prestigious academic publications such as one by De Gruyter Mouton, and were presented at international conferences including invited speeches for LTTC, ELLAK, and GELES.

研究分野: 「国際英語」教育

キーワード: 国際英語 ELF EIL World Englishes 教授法

1. 研究開始当初の背景

(1) 「国際英語」(English as an International Language, EIL)とは、国際コミュニケーションの手段としての英語を指すが、その属性として、英米文化の枠組みや母語話者の規範を超えた多様な英語という性質を有する。「国際英語」を表す英語での用語としては、EIL (Smith, 1981) の他、重点の置きどころによって、ELF (English as a Lingua Franca) (Jenkins, 2000; Seidlhofer, 2011) や WE (World Englishes) (Kachru, 1985)などが該当する。

グローバル社会の要請を反映して、この国際英語の概念については年々関心が高まっている。学界での研究も、かつてはその社会言語学側面が中心であったが、今日では、教育への応用についての研究も盛んになりつつある。しかしながら、これまでに報告された教授法は、すでに高い英語力を有する学習者に対して国際英語の多様性を認識させる方法という趣旨のものが多く、実際に国際英語のコミュニケーション能力を養成するための教授法の提案や実践例の報告はまだきわめて限られている現状であった。

(2) 上記に関して、本研究代表者は、その前の科学研究において、IPTEIL (Integrated Practice in Teaching English as an International Language)という「国際英語」教授法を開発し (Hino, 2012b)、また国際コミュニケーションにおける日本人の自己表現のための Japanese English のモデルの試論を提示し (Hino, 2012a)、さらに「国際英語」教授法における文化的要因の重要部分を明らかにする (Hino, 2012c) などの成果を挙げた。しかしながら、急速に発展する ELF 研究の知見なども取り入れつつ国際英語のインタラクションにおけるダイナミズムをさらに重視した教授法の方法論を打ち出すことの必要性も、今後の課題として浮き彫りになった (日野, 2013, 2014)。

2. 研究の目的

(1) 上の1で述べた背景に鑑み、本研究は、国際英語におけるインタラクションの流動性や状況依存性に着目し (Cogo, 2012)、日本の大学教育を対象として、「参加型」の「国際英語」教授法のモデルの構築を目的とするものである。オーセンティック(authentic)な状況で国際英語が使用されるコミュニティへの参加による学び (cf. Lave and Wenger, 1991)を重視する。

(2) 具体的には、参加型「国際英語」教授法を「教室内参加型」と「教室外参加型」に分類し、それぞれの形態における方法論の構築を目指した。

3. 研究の方法

(1) 「教室内参加型」の「国際英語」教育とし

ては、2種類のフィールドを設定し、研究を実施した。

そのひとつは、大阪大学の共通教育での英語教育である。本研究代表者による教授法 IPTEIL に最近の ELF 論の視点を導入しながら、アクションリサーチを行った。インターネットに接続された CALL (Computer Assisted Language Learning) 教室においてさまざまな国の英語メディアを通してリアルタイムのニュースに接することにより、現実の国際英語の使用者のコミュニティに参加する授業である。このクラスは、カリキュラムにおいては、通常の英語授業 (English Language Teaching, ELT)として開講されており、下記の EMI 授業とは異なる性質を有する。

「教室内参加型」に属するもうひとつのフィールドとしては、近年注目の度合いが高まっている EMI (English-Medium Instruction) (Doiz, Lasagabaster, and Sierra, 2013; Jenkins, 2014)、すなわち、英語による専門授業を取り上げた。つまり、ELT クラスではなく、英語以外の内容 (content)の教育を主眼とする EMI クラスにおける国際英語の学びに着目した。

EMI 授業として、大阪大学大学院における研究代表者の言語教育学のクラスをはじめ、C大学の学部における連携研究者による教育学のクラス、O大学の学部における日本文学のクラス、N大学の学部での地域研究論のクラスの授業を観察し、ビデオ撮影、アンケート、インタビュー等を実施して分析した。

これら4件の授業は、教員 (WE論でいう Inner Circle, Outer Circle, Expanding Circleのいずれのバックグラウンドを有するか) や受講生 (留学生が多数か、日本人学生が中心か) など、いくつかの要因によって異なるタイプの EMI 授業と位置づけることができ、それぞれ環境の異なる EMI における「国際英語」教授法のあり方について考察することが可能となった。

(2) 「教室外参加型」の「国際英語」教育としては、本研究の研究協力者であり米国における EIL 論の創始者として知られる Larry E. Smith 氏がホノルルのハワイ大学を拠点としてオアフ島で実施している Global Cultural Exchange Program (GCEP)(なお旧称は Global Challenge Program, GCP)を対象とするフィールドワークを行った。

ハワイは、国際英語が日常的に用いられている多文化社会である。この環境を利用した GCEP において、日本人学生が参加している Professional Experience in World Englishes (PEWE) 及び Living World Englishes (LWE) という2つのプログラムを観察し、アンケート・インタビュー等を実施して分析した。

4. 研究成果

(1)「教室内参加型」の「国際英語」教授法については、上記3の(1)の及びに対応する2つのモデルを提案し、その概略を提示することができた。すなわち、IPTELF

(Integrated Practice in Teaching ELF)、

CELFIL (Content and ELF Integrated Learning)である。IPTEILに最近のELF論の知見を取り入れ、IPTELF (Integrated Practice in Teaching ELF)として再構成するために必要な要素を示した。具体的には、国民国家の枠組の超克、使用するメディアの選択における英語のintra-national useとinternational useの区別、教室内でのELFインタラクションなどである。

EMIにおいて内容と言語を統合的に教育するCLIL(Content and Language Integrated Learning) (Coyle, Hood, and Marsh, 2010)を「国際英語」教授法に応用し、CELFIL(Content and ELF Integrated Learning)というアプローチを提案した。このCELFILの実践のための理想的な環境として、留学生と日本人学生がともに学ぶタイプのEMI授業を挙げ、たとえばsmall-group discussionにおいて適応(accommodation)や意味交渉(negotiation of meaning)などのスキルを学ぶこと等、具体的な方法論の一端を示した。また、多様な文化的背景を有する受講生と一緒に学ぶ国際英語クラスのためのIntercultural Pedagogyの必要性について論じた。

EMIにおける「国際英語」教育については、さらに、受講生が日本人学生のみでも、Outer CircleやExpanding Circleのバックグラウンドを有する教員のEMIはWE論の観点からの国際英語の実践としての意義を有することを示した。また、教員・受講生の双方とも日本人であるケースにおいても、教員の英語によりJapanese Englishのモデルを提示するという重要な機能を果たせることを論じた。

(2)「教室外参加型」の「国際英語」教育としてのハワイでのGCEP(Global Cultural Exchange Program)について、特に、多文化社会ハワイにおける保育園やウォーターパークやホテルでの職業体験としてのJob Shadowingが、国際英語の使用者の現実のコミュニティに参加し、適宜のサポートを得ながら、国際英語のユーザーとして成長していく機会として、大きな意義を有することを示した。海外におけるインターシップ等が最近注目される中、interculturalな状況における職業体験は「国際英語」教育の視点からも有益であることを示唆するものである。

なお、本研究の研究協力者であり、上記GCEPの主宰者であるLarry E. Smith氏は、長年にわたって「国際英語」研究を世界レベルで牽引してこられたが、本科研期間中の

2014年12月に、急病により逝去された。御生前の御協力に対する感謝とともに、ここに追悼の意を記す。

<引用文献>

Cogo, A. (2012). ELF and super-diversity: A case study of ELF multilingual practices from a business context. *Journal of English as a Lingua Franca*, 1(2), 287-313.

Coyle, D., Hood, P. & Marsh, D. (2010). *CLIL: Content and language integrated learning*. Cambridge: Cambridge University Press.

Doiz, A., Lasagabaster, D. & Sierra, J. M. (2013). Future challenges for English-medium instruction at the tertiary level. In A. Doiz, D. Lasagabaster & J. M. Sierra (Eds.) *English-medium instruction at universities: Global challenges* (pp. 213-221). Bristol: Multilingual Matters.

Hino, N. (2012a). Endonormative models of EIL for the Expanding Circle. In A. Matsuda (Ed.) *Principles and practices of teaching English as an international language* (pp.28-43). Bristol: Multilingual Matters.

Hino, N. (2012b). Participating in the community of EIL users through real-time news: Integrated Practice in Teaching English as an International Language (IPTEIL). In A. Matsuda (Ed.) *Principles and practices of teaching English as an international language* (pp.183-200). Bristol: Multilingual Matters.

Hino, N. (2012c). Negotiating indigenous values with Anglo-American cultures in ELT in Japan: A case of EIL Philosophy in the Expanding Circle. In A. Kirkpatrick & R. Sussex (Eds.) *English as an international language in Asia: Implications for language education* (pp.157-173). Dordrecht: Springer.

日野信行. (2013). 「国際英語におけるコミュニケーション能力の養成」片岡邦好・池田佳子(編)『コミュニケーション能力の諸相:変移・共創・身体化』(pp.429-455). ひつじ書房.

日野信行. (2014). 「『国際英語』におけるメディアリテラシー教育の実践」佐藤慎司・熊谷由理(編)『異文化コミュニケーション能力を問う:超文化コミュニケーション能力をめざして』(pp.207-227). ココ出版.

Jenkins, J. (2000). *The phonology of English as an international language*. Oxford: Oxford University Press.

- Jenkins, J. (2014). *English as a lingua franca in the international university: The politics of academic English language policy*. Abingdon, Oxon: Routledge.
- Kachru, B. B. (1985). Standards, codification and sociolinguistic realism: The English language in the Outer Circle. In R. Quirk & H. G. Widdowson (Eds.) *English in the world: Teaching and learning the language and literatures* (pp.11-30). Cambridge: Cambridge University Press.
- Lave, J. & Wenger, E. (1991). *Situated learning: Legitimate peripheral participation*. Oxford: Oxford University Press.
- Seidlhofer, B. (2011). *Understanding English as a lingua franca*. Oxford: Oxford University Press.
- Smith, L. E. (1981). English as an international language: No room for linguistic chauvinism. *Nagoya Gakuin Daigaku Gaikokugo Kyoiku Kiyō* 3, 27-32. Also in L. E. Smith (Ed.) (1983). *Readings in English as an international language* (pp.7-11). Oxford: Pergamon Press.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

Hino Nobuyuki, "Toward the development of CELFIL (Content and ELF Integrated Learning) for EMI classes in higher education in Japan," In K. Murata (Ed.) *Waseda Working Papers in ELF*, 招待執筆, Vol.4, 印刷中.

Hino Nobuyuki, "Significance of the concept of ELF for ELT pedagogy in Japan," 『これからの英語教育』(言語文化共同研究プロジェクト2014), 査読無, 大阪大学大学院言語文化研究科, 2015, pp.1-12.

Hino Nobuyuki, "Negotiation between East Asian values and Anglophone culture in the teaching of English in Japan," *Proceedings of the 2015 LTTC International Conference*, 招待執筆, The Language Training & Testing Center, 2015, pp.17-32.

Hino Nobuyuki, "The learning of EIL in EMI classes in higher education," 『英語教育の今日的課題』(言語文化共同研究プロジェクト 2013), 査読無, 大阪大学

大学院言語文化研究科, 2014, pp.1-10.

Hino Nobuyuki, "Teaching de-Anglo-Americanized English for international communication," *The Journal of English Language and Literature*, 招待執筆, The English Language and Literature Association of Korea, Vol. 60, No.1, 2014, pp.91-106.

小田 節子, 『『国際英語』教育としてのフィリピンでの英語研修』『英語教育の新しい潮流』(言語文化共同研究プロジェクト 2012), 査読無, 大阪大学大学院言語文化研究科, 2013, pp.21-28.

[学会発表](計19件)

Hino Nobuyuki, "Significance of the concept of ELF for ELT pedagogy in Japan," Panel "Globalized English: Transnational interactions," 2015 LTTC International Conference, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, 2015年4月19日, 招待講演.

Hino Nobuyuki. "Negotiation between East Asian Values and Anglophone culture in the teaching of English in Japan." 2015 LTTC International Conference, National Taiwan University, Taipei, Taiwan. 2015年4月18日, 招待講演.

Hino Nobuyuki, Oda Setsuko, "Experiencing authentic communication in World Englishes: EMI classes in higher education in Japan," The 20th Conference of International Association for World Englishes, Amity University, Delhi-NCR, India, 2014年12月19日.

Hino Nobuyuki, "Toward the development of CELFIL (Content and ELF Integrated Learning) for EMI classes in higher education in Japan," Panel "Exploring ELF in EMI settings," The 4th Waseda ELF International Workshop, Waseda University, Tokyo, Japan, 2014年11月14日, 招待講演.

Hino Nobuyuki, "Pedagogy for the post-native-speakerist teacher of English," The 2nd International Symposium on Native-Speakerism, Saga University, Saga, Japan, 2014年9月30日, 基調講演.

Oda Setsuko, "Japanese students learning English from non-native

speakers: A case study in the Philippines,” The 2nd International Symposium on Native-Speakerism, Saga University, Saga, Japan, 2014 年 9 月 29 日.

日野 信行, 「国際英語の実践共同体への参加としてのアジア海外研修」, シンポジウム「アジアにおける英語研修・留学」, 日本「アジア英語」学会第 34 回全国大会, 京都外国語大学(京都府京都市), 2014 年 6 月 28 日, 招待発表.

Hino Nobuyuki, “English-Medium Instruction (EMI) in Japanese universities: An opportunity to learn English as an International Language (EIL),” GELES Symposium 2014 “The use of English as a medium of instruction in higher education in the Asia-Pacific: Issues and challenges,” Griffith University, Brisbane, Australia, 2014 年 3 月 29 日, 基調講演.

Hino Nobuyuki, “Locally-appropriate methodologies for the teaching of World Englishes: The case of Japan,” The 19th Conference of International Association for World Englishes, Arizona State University, Tempe, Arizona, U.S.A, 2013 年 11 月 18 日.

Oda Setsuko, “Choosing the Outer Circle for learning English: A case of Japanese students in the Philippines,” The 19th Conference of International Association for World Englishes, Arizona State University, Tempe, Arizona, U.S.A, 2013 年 11 月 18 日.

Hino Nobuyuki, “The teaching of English as a de-Anglo-Americanized language for international communication,” 2013 ELLAK International Conference, Sookmyung Women’s University, Seoul, Korea, 2013 年 11 月 9 日, 基調講演.

Hino Nobuyuki, Oda Setsuko, “A radio ELF education program in Japan 1989-1990: Suggestions from pioneering efforts,” The 6th International Conference of English as a Lingua Franca, Roma Tre University, Rome, Italy, 2013 年 9 月 7 日.

日野 信行, “A roadmap for creation and diffusion of Japanese English for

international communication,” Symposium “The future of Japanese English for international communication,” 日本「アジア英語」学会第 32 回全国大会, 大阪大学豊中キャンパス(大阪府豊中市), 2013 年 6 月 22 日.

Hino Nobuyuki, “A socio-educational vision for creation and diffusion of Japanese English: A prospect for the Expanding Circle,” The 18th Conference of International Association for World Englishes, City University of Hong Kong & Sun Yat-Sen University, Hong Kong & Guangzhou, China, 2012 年 12 月 7 日.

Hino Nobuyuki, Oda Setsuko, “Participatory learning of EIL: The case of an EIL program in the multicultural environment of Hawaii,” The 18th Conference of International Association for World Englishes, City University of Hong Kong & Sun Yat-Sen University, Hong Kong & Guangzhou, China, 2012 年 12 月 6 日.

日野 信行, 「当日のニュースを通して現実の国際英語の世界に参加する授業」, 2012 年度大学英語教育学会関西支部秋季大会 シンポジウム「大学英語教育のベストティーチングとはなにか? 各大学の教育賞受賞者が語る『私の授業』」, 京都産業大学(京都府京都市), 2012 年 11 月 24 日. 招待発表.

日野 信行, 「『国際英語』教育におけるメディアリテラシーの養成」, 日本語教育国際研究大会 2012 パネルセッション「ことばの教育の連携」, 名古屋大学東山キャンパス(愛知県名古屋市), 2012 年 8 月 19 日.

Hino Nobuyuki, “Japanese English as pedagogical creation” Symposium “Balancing language variation and normativity in ELT,” 日本「アジア英語」学会第 30 回全国大会, 京都外国語大学(京都府京都市), 2012 年 7 月 7 日, 招待発表.

Hino Nobuyuki, Oda Setsuko, “Integrated Practice in Teaching English as an International Language (IPTEIL): A classroom ELF pedagogy in Japan,” The 5th International Conference of English as a Lingua Franca, Boğaziçi University, Istanbul,

Turkey, 2012年5月24日.

〔図書〕(計4件)

Hino Nobuyuki, "English for Japan: In the cultural context of the East-Asian Expanding Circle," L. Gerhard, A. Hashim & H-G Wolf (Eds.) *Communicating with Asia*, Cambridge: Cambridge University Press, 印刷中.

Hino Nobuyuki, "Learning EIL through participation in the community of EIL users in Hawaii," 井村誠・拝田清(編) 『日本の言語教育を問い直す』, 三省堂, 2015年, pp.375-384.

日野 信行, 「国際英語」, 吉田晴世・加賀田哲也・泉恵美子(編) 『英語科・外国語活動の理論と実践』, あいり出版, 2015年, pp.65-77.

Hino Nobuyuki, Oda Setsuko, "Integrated Practice in Teaching English as an International Language (IPTEIL): A classroom ELF pedagogy in Japan," Y. Bayyurt & S. Ackan (Eds.) *Current perspectives on pedagogy for English as a lingua franca*, Berlin: De Gruyter Mouton, 2015年, pp.35-50.

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

日野 信行 (HINO, Nobuyuki)
大阪大学・大学院言語文化研究科・教授
研究者番号: 80165125

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

小田 節子 (ODA, Setsuko)
金城学院大学・人間科学部・准教授
研究者番号: 30364665

(4) 研究協力者

Larry E. Smith